

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	紀三井寺苑		
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3070101518-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3070101518-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成25年1月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気作りと利用者とのコミュニケーションを大事にし、その人らしく暮らして頂けるよう職員一人ひとりが利用者の思いや気持ちを表せるよう支援しています。又、利用者、家族様にとって居心地の良い環境作りに努めています。自分でできることはして頂くように取り組み、その人に合った買い物、散歩、外食、お茶会などで気分転換を図って頂けるように支援を行っています。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の人々との触れ合いを持ち「その人らしく」笑顔で楽しく過ごすという理念通り、地域の人々と交流の機会がもてるよう努めており、法人主催のふれあい教室には地域の小学生が訪れ、職員が保育所の運動会に参加するなどしている。居心地のよい温もりのある場所を目指し日々試行錯誤しながらも、その人の気持ちに寄り添い、ありのままの姿を全て受け入れられるよう努め、入居者と共に一緒に泣き、一緒に笑うという気持ちでケアに取り組んでいる。管理者と職員間で頻繁に話し合い、入居者が穏やかな空気のなかで自由に過ごせる環境づくりに積極的に取り組んでいる。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは理念に基づき入居者のケアについて話し合っている。又、毎月目標を決め毎日の申し送り時に唱和している。	ホーム独自の理念を基に、ケアの目標を決めて事務所の入口に掲示し、職員の自覚を促す意味で毎朝の申し送り時に全員で唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所の運動会に参加しています。又、事業所主催のふれあい教室、夏祭り等の行事に参加される地域の方との交流に積極的に取り組んでいる。秋祭りには、獅子舞を見せに来てくれている。	法人が開催する健康教室や介護教室には地域からの参加者も多く、毎回家族や入居者も参加して体操や体力測定等を楽しみながら交流し、健康増進に活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や家族様にデイサービスでの介護教室参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自由に意見を出し合い、意見や要望をひとつずつ実現できるよう努力している。	会議では地域包括支援センターの職員、家族や地域の人々と活発に意見交換し、出された要望をサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者ととの情報交換は運営推進会議に留まっている。	事務連絡や報告以外に、行政との繋がり無く、行政に向くこともほとんどない。	市の担当者に事業所の実情を伝えるため、日頃から気軽に出かけて関係性を作る積極的な姿勢を持つことに期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアには取り組んでいる。日中は鍵をかけず安全に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	入居者が外出しそうな様子を察知して声かけしたり同行するなど、一人ひとりのパターンを把握して自由な暮らしを支える努力をしているが、安全確保のためセンサーを設置して、建物の死角になる所のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止につとめている。		

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が成年後見人制度を利用しています。家族様には必要に応じ制度があることを説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、再度利用料金、重度化に伴うリスク、事業所のケアに関する取り組みや考え方を十分な時間を取り説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様の参加を呼びかけ外部者へ意見を表せるようにしている。年2回の家族会には運営推進会議を行い、要望や意見を出して頂いている。	家族からの要望や意見を出しやすい雰囲気作りに留意して、2カ月に1回、写真入りの便りを出してホームでの様子や健康状態、年間行事を知らせている。	意見や苦情は事業所にとっては宝であるとの認識を持ち、苦情を引き出すための工夫の検討が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を聞くと共に個別に要望等を問いかけている。	職員の気づきや要望を話し合う機会は多く、職員と管理者の意思の疎通を密にとりあって、毎日のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて実績の評価、今期の目標を記入し自由記述にて条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される講座、研修会にはなるべく多くの職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問の活動を通じサービスの質を向上させていく取り組みに努めている。		

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接で本人様の話をよく聞き、希望する事や不安に感じる事を把握し、家族様より年代別背景や本人様の日常生活の様子を伺い、本人様を知ることでの安心の確保と関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に困っている事、不安な事、要望等を日頃より聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様の思い、状況を確認し必要な支援を見極め、場合によっては他のサービスの利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしながら四季を感じ喜びを共に共有し、大家族のように過ごし、安心して笑顔の絶えない環境に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から本人の様子などを家族様にこまめに報告し、家族様と一緒に本人を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外にも知人や昔からの友人が訪ねている。又、本人の希望を家族様に伝え関係が途切れないよう支援している。	つながりの継続を支援しており、昔からの友人の訪問を受けたり、こちらから訪問したりしている。以前に住んでいた場所や利用していたスーパーに出かけるなど、個別に対応し行きたいところに行ける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を見据えた上で利用者同士が上手く関わりあえるように支援している。		



【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らして頂けるように、警察や消防、教育機関や地域のボランティアなどと協力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族様の希望によりかかりつけ医を選んで頂いている。家族様と協力し、通院介助を行ったり、往診に来て頂くなど、複数の医療機関との関係を密にして、適切な治療を受けられるよう支援している。	入居者や家族が希望するかかりつけ医になっている。家族で受診できない時は職員が代行し、また、かかりつけ医に電話で相談し指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の施設の看護師や訪問看護師と気軽に相談しながら、日々の健康管理や状態変化に応じた対応を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、医療機関に本人のケアを含めた情報を提供すると共に、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者、家族様と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、現時点でのグループホームの限界も説明した上で、本人様、家族様、主治医、看護師などと早い段階から話し合いを行っている。本人、家族の意向をふまて、医師、看護師、介護職員が連携し、チームとして支援に取り組んでいる。	入居時、グループホームの申込書類と一緒に特養の書類も作成している。重度化や緊急の容態変化に対しては、協力医療機関の医師や看護師等と連携を取りながら、事業所は終末期まで支える支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者・家族様の希望でかかりつけ医を選んで頂いている。家族様と協力し、通院介助を行ったり、往診をして頂くなど医療機関との関係を密にして、適切な治療を受けられるよう支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により避難訓練や救急法の講習会を設けている。職員1人一人の役割分担を決め、家族様にも災害時の対応について大まかに説明している。	年に1回、併設の施設と行っている。消火器の配置場所や避難経路を確認し、災害時の対応については運営推進会議で家族にも説明している。	

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を見極め、1人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに留意した声かけや対応に努めている。	入居者は「かけがいのない人である」と言う事を全職員は常に念頭におき、尊厳を傷つけない言葉かけをしながら、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出に出掛け好きな食べ物を選んで頂いたり、買い物支援時は好きなものをご自分で買って頂いている。月1回のおやつ選択日はみなさんに好きなおやつを選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に希望や要望に耳を傾けた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容師の方に来て頂き、希望の利用者が好きな髪型に切って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望を聞きながら職員が考えている。利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。	メニューは入居者の希望を聞きながら職員が考え買物をしている。食事は入居者をサポートしながら一緒に食べ、介助が必要な場合もできるだけ自分で食べられる工夫をし、食器洗い等、役割が持てる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量や食事量、栄養バランスに注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛け、ポリデント洗浄のケアを行っている。		

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、負担にならないような誘導、声掛けを行っている。個々のチェック表を把握し、気持ちよく排泄できるように取り組んでいる。	一人ひとりの排泄のサインを把握し、さりげなく誘導、声かけを行っている。オムツの使用は少なく、ポータブルトイレは夜間のみ使用している。チェック表を活用して気持ちよく排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、便秘予防に水分強化、ヨーグルトや散歩の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の入りたい時間やタイミングに合わせて入浴して頂けるように個々に支援している。	入浴は隔日で、一人ずつの希望の時間に合わせている。拒否する入居者には順番をずらしたり、シャワー浴に切り替えたりしながら、その人に合った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの状態に応じ生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬内容を付けお薬の目的・副作用を提示し職員全員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じ大まかに家事を分担して手伝って頂いたり、日々の生活を楽しんで頂くよう買い物、ドライブ、カラオケなどの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に散歩、ドライブ、買い物など日常的に外出する機会を持っている。又、本人の希望を把握し、家族様の協力も得ながら自宅に帰ったり、買い物に出掛けたりしている。	入居者のその日の体調に合わせ、希望に添えるよう個別の買い物や外出の支援に努めている家族の協力でも外泊や外出ができて入居者もいる。	

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はお金を持たれているので、要望があれば買い物に行けるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が利用したい時に、すぐかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ダイニングなど季節感を取り入れて、見て喜んで頂ける空間作りを工夫している。又、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるように配慮している。	ひな人形を飾るなど季節が感じられる工夫をしている。畳が敷かれたコーナーもあり、生活感のある毎日を送れるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思い過ごせるような居場所作りの工夫は随時行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好きな物や落ち着く物などを、家族様に持って来て頂いている。	居室はゆったりしたスペースで安全に配慮している。家族にも協力を求め、馴染みのタンスを置いたり、孫の写真や折り紙の作品等飾るなど、居心地よく過ごせるように工夫している。	家族の協力が難しい場合は、職員間で話し合い「本人に合わせたしつらえ」の工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの利用者方の力で出来る事・わかる事を活かし、できるだけ自立できるよう工夫している。		